ご確認用

第３４回北区区政会議　会議録

１　開催日時

令和２年１１月５日（木）　午後３時００分から午後５時０１分まで

２　開催場所

北区役所　４階　４０２・４０３会議室

３　出 席 者

山田　貞夫（議長）、小玉　始（副議長）、板坂　由美子（委員）、

岩本　康男（委員）、植松　光徳（委員）、岡田　宣子（委員）、

重矢　錐宏（委員）、兼光　裕之（委員）、岸本　恒夫（委員）、

友田　幸子（委員）、南埜　育子（委員）、樋口　洋子（委員）、

松田　清司（委員）、三島　保（委員）、三野　扶美（委員）

くらもと　隆之（市会議員）、前田　和彦（市会議員）、

山本　智子（市会議員）

前田　昌則（区長）、奥野　尚史（副区長）、角野　良昭（総務課長）、

片岡　賢一（政策推進課長）、香山　豊（政策推進課長代理）、

小野　次生（地域課長）、柴田　昌美（福祉課長）、

岩崎　透（健康課長）

４　委員に意見を求めた事項

北区将来ビジョン〔３か年計画〕（案）について

令和３年度北区運営方針（素案）について

令和元年度北区運営方針の自己評価について

５　議事内容

○香山政策推進課長代理

お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまから第３４回北区区政会議を開会いたします。

本日は、お忙しい中御出席を賜り、誠にありがとうございます。

北区役所政策推進課の香山です。よろしくお願いいたします。

本日は、新型コロナウイルス感染防止対策の上、開催させていただいております。皆様には、入場でのアルコール消毒やマスクの着用に御協力いただき、ありがとうございました。

その他、本日の運営に当たり御協力いただきたい点につきまして、幾つか申し上げます。意見聴取の際に使用するマイクですが、使い捨てカバーの交換とアルコール消毒を行いますので、使われました後は、隣の委員の方に回したりせず、そのまま係の職員にお返しください。発言の際には、立たずにそのまま座ったままでお願いいたします。区役所側も着席のまま答弁させていただきます。換気のため、窓を開けております。もし暑い、寒いがございましたら、職員までお声かけください。以上、御理解と御協力をお願いいたします。

それでは、本日の議事についてですが、金下委員が御欠席でございます。したがいまして、委員定数１６名のうち１５名が出席されており、議長を含む委員定数の２分の１以上の委員が出席されておりますので、有効に成立いたします。

なお、樋口委員につきましては、所用のため４時頃退席されることを伺っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、北区選出の高山市会議員が御欠席、久谷府議会議員におかれましては、本日、府議会政務調査委員会公務のため御欠席でございます。

次に、４月１日付人事異動により新たに着任しました職員を御紹介いたします。

区長の前田でございます。

○前田区長

前田です。どうぞよろしくお願いいたします。

○香山政策推進課長代理

政策推進課長の片岡でございます。

○片岡政策推進課長

片岡です。よろしくお願いします。

○香山政策推進課長代理

地域課長の小野でございます。

○小野地域課長

小野です。どうぞよろしくお願いいたします。

○香山政策推進課長代理

以上でございます。

なお、区役所の出席職員ですが、武廣戸籍登録課長、森保険年金課長、宮部生活支援課長につきましては、自席待機としておりますので、御了承ください。

それでは、開会に当たりまして、区長の前田から御挨拶申し上げます。

○前田区長

皆さん、御多忙のところ区政会議に御出席いただきまして、ありがとうございます。

コロナの影響で、２回、区政会議が中止となり、私も４月に着任して、皆さんにこの場でお会いするのが初めて、また区政会議委員の皆様でまだお会いできていない方もたくさんいらっしゃいまして、申し訳ございません。

少し自己紹介させていただきますと、私は４年前に此花区長に着任いたしまして、そしてこの４月に北区長に異動いたしました。その前は、３０年間パナソニックグループの中のパナホームというところで２０年商品開発、１０年は不動産事業を展開してまいりました。北区においては、民間企業で３０年間培ったマネジメント手法と、それと私が持っております人脈を活用しながらこの北区政、よりよいまちにしてまい

りたいと思っておりますので、どうぞ御支援のほうよろしくお願い申し上げます。

今日は職員を少し減らしておりますのは、コロナということもあるんですけれども、コストなんです。何人かの課長はここにいませんけれども、皆さんの質問があって、その専門部署の質問があれば、自席待機をさせておりますので、それまでは仕事をするという意味合いでございます。やっぱりコストパフォーマンスが大事と思っていますので、そういうことで少しバックヤードがおりませんけれども、きっちりとした質問対応はさせていただきますので、どうぞ御理解のほうよろしくお願い申し上げます。

以上です。

○香山政策推進課長代理

それでは、議事に入りたいと思います。

山田議長、よろしくお願いいたします。

○山田議長

皆さん、こんにちは。議長を務めます山田です。よろしくお願いします。

本日も円滑な議事進行に努めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の区政会議ですが、一つ目には、北区将来ビジョン〔３か年計画〕（案）について、二つ目は、令和３年度北区運営方針（素案）について、三つ目が、令和元年度北区運営方針の自己評価について、この三つの議題について皆さんの御意見をお聞きすることになっております。

まず一つ目の北区将来ビジョン３か年計画ですが、これは令和３年度から５年度の３か年の取組や目標を数値化したもので、後ほど区長のほうから直接詳しく御説明をいただくことになっております。

二つ目は、令和３年度の運営方針素案ということになっております。

三つ目は、前回中止のためできておりません、昨年度の運営方針の自己評価につきまして、後ほど片岡政策推進課長から御説明をいただきます。

ただいま申し上げましたように、本日はいつもより議題が多くございますので、委員の皆さんの全員から御意見を聞くという時間があるかどうか、進めてみないと分かりませんが、できるだけ御意見を頂戴したいと思っております。どうぞ御理解のほどお願いいたします。

それでは、まず前田区長から、北区将来ビジョン〔３か年計画〕（案）の御説明をお願いいたします。

○前田区長

それでは、北区の将来ビジョン〔３か年計画〕、これは今から話をする内容は、各地域の個々の課題は入っていません。北区総体に対する基礎自治のテーマ、共通項に関する部分を将来どうしていくか、こういう話のテーマでございます。区長が代わるとビジョンが変わると。そのビジョンに基づいて具体的な３年間の作戦が３か年計画ということになろうかと思います。

今日、この１１月の区政会議に入る前に、いろんな計画を立てるときはいろんな人の意見に耳を傾けないといけないということで、それぞれ意見交換会をこなしてまいりました。教育の分野は先生と親に意見を聞かなあかんということで、ＰＴＡ代表、それから小・中学校の校長に調整をしております。防犯の分野は警察署長と話をしてきました。この方策で防犯対策として十分だろうかという話はしてきました。それと、この区は放置自転車が非常に大きな課題を占めております。これはこれで五つの地域の皆さんが毎月啓発活動をいただいているので、例えば植松委員であったり三島委員であったり、そういう方に集まっていただいて、この作戦も検討してまいりました。いろんな福祉の分野もありながら、各種団体の長、例えば小玉副議長は社協の会長として、友田委員は女性会の会長として事前に話も聞いていただきながら調整をした上で、この区政会議に持ってまいりましたというプロセスでございます。

区長が代わればビジョンが変わるというのはちょっと極端な言い方をしましたが、実はビジョンというのは、北区のそれぞれの地域には我がまちの将来ビジョンという

のは既に定まっておりまして、これがその一覧表でございます。ここに赤で書いた文字、絆とかつながりとかは、言葉は違うけれども、狙っていることはほぼ同じかなということを加味して、それを集約すれば、上に書いております、集まる、支える、絆、こういうことが総体的に皆さんの目指している姿なんじゃないかなというふうに思いました。したがって、北区が目指す区の将来ビジョンとしては、人が集い、そして、ともに支えあい、絆をはぐくむまち、こういうふうな置き方をすれば、今皆さんがいろんな地域で頑張っている活動は、ほぼここに包括される、そういうふうに思いましたので、これをあてさせていただきたいというふうに考えています。英訳しますと、上に書いています「Kita-Ku where the people gather, support each other, and tie the KIZUNA」。 gatherというのは集めるという意味です。人が集まるということですね。support each other、これはともに支えるということです。and tie the KIZUNA、絆というのは英訳ないです。絆は絆です。tieというのはネクタイのタイ、結ぶということです。赤のところだけ皆さん読んでいただくと、北区が好きと書いています。そういう語呂合わせもありまして、恐らくここにお集まりの皆さんは北区に愛着を持って、このまちをよくしたいと、そういう方ばかりなので、北区がよくなるようにみんなで守っていくと、そういうシンボルフラッグとして、人が集い、ともに支えあい、絆をはぐくむまちと、これをビジョンとしてスタートしようと思っています。新たなものでもありません。皆さんが今まで目指してきたものです。そのための３か年の階段、２０２１年、２０２２年、２０２３年、それを今から御説明申し上げます。

私は、もともとビジネスマンなので、目標というのは具体数値がないと目標ではないと思います。役所の目標の設定の仕方っていろいろ議論があると思うんです。低過ぎると、低いんちゃうん、安全踏んでるんちゃうんと、そういう話があるので、後で登場する数字は定量化を目標にしますけれども、私がビジネスマンとしてやってきたマーケットシェアというこの数字を置きます。これはクープマンの法則という学術的

にも体系があるんですけれども、７％は聞いたことがある。２０％は多くの人が知っている。４０％はほぼみんな知っている。７４％は独占シェアと言われまして、みんなが知っているというやつです。この数字を目標値に何らかのマーケットシェアを当てていきます。例えば、下にありますセブンイレブンさんというのは４４％なんですけれども、これは安定シェアです。これはコンビニでいけば業界トップです。ローソンさんは２０％ぐらいです。MINI STOPさんというのはあまり関西にないんですけれども、シェア７％程度です。でも、聞いたことあるよなという、このシェアというのは大体そんな感じのものと思っていただいて結構です。作戦としては、新たに事業を立てて７％にいくまでは一点集中させます。これは事業は絶対そうです。いろんなことをやると、そこで失敗します。一点集中して７％まで上げて、そこから後に間口を広げる作戦に行きます。そのために事業は選択と集中を行う。これはランチェスターの戦略というやつです。選択と集中を行います。それと、局地展開をします。これは場所ごとに同じ現象でも課題が違うことがあります。堂山地域の放置自転車のありようと、梅田東エリアの放置自転車のありようは全く違います。それぞれの処方箋を出さざるを得ないと、こういうことです。

この７ページが、結論主義でいいますと全ての結論はここに集約されています。これが目標値です。３年後の姿をここに投影しました。防災については、防災訓練参加者を１万人にまで上げます。これで人口の７％です。現状、５，０００人、３．５％。ということは、防災訓練参加者というファクターからすると、あまり知られていないということです。この状態で災害が起きると、ろくなことはないと。だから７％まで最低限上げると。１万人。そういう目標を立てます。

防犯につきましては、こども１１０番運動を再加速させます。現状のこども１１０番の家は２，０００か所あります。人口にすると１．４％。あまり知られていないと思います。知っている人は知っていると。２万７，０００か所に上げるということは、人口の２割まで来ると。ある程度周知ができるというラインです。それと、青パトの

稼働率は、ほぼ１００％を狙いたいんですが、１００という数字はないと思うので、最大限９５％まで。この区役所に青パト、パトロールカーがあるんですけれども、それをフル稼働させると。警察も定期的にパトロールってなかなかできないです。人員の問題で。ただ、ここは専用人員がいるので、ほぼ毎日稼働させようと。理由や個々の詳しい説明は後ほど申し上げます。

放置自転車につきましては、放置率という言葉で定義します。放置率とは何ぞやは後で説明しますが、現状１７％です。それを半減ぐらいさせないと、多分区民の皆さんはよくなったなという感触は持たないと。１割ぐらい削減では変わらんなというふうなことになっちゃうので、半減ぐらいさせる目標で取組をスタートします。

教育分野におきましては、「学テ」と書いておりますのは、全国学力テストのことです。１６校全ての小・中学校が全国学力テストにおいて平均点を上回ると。北区はレベル高いので、北区総体としては全国平均を超えておりますが、全校がということで底上げを図るということです。実は、大阪の子は、なかなか夢や目標を持っている子が少ないと。何かに向かって頑張らないと駄目なんだということが分からないということなんです。夢や目標を持てるような仕掛けをつくっていくということが学力を上げるためにも大事かなと。夢や目標を持てるという中学校１年生の割合を７４％。ここまで来たらほぼ全員が持っているということだと思います。

健康につきましては、親子の絆づくりプログラム。これは初めてのお子さん、第一子を出産されたお母さんで、おじいちゃん、おばあちゃんが近くにいなくてサポートする方がいない、そんな方が区内に２００人ぐらいいらっしゃいます。この方たちを集めていろんな研修をしたり、お母さん方のコミュニティをつくったり、そういうつなぎをしていく、そういう活動をやります。今、約２００名の中の８０名ぐらいが毎年参加していますけれども、１４０名、７４％まで上げるということでございます。

介護予防の場、２４か所というのは百歳体操です。これは国の基準があって、高齢者１，０００人に対して１か所つくると。北区では２４か所必要なんですけど、今２

１か所。あと数か所開けていきます。

保健福祉のジャンルでは、重大な児童虐待ゼロ。これは当たり前です。大阪市がフラッグを上げての重大な児童虐待ゼロ。これは、きれいな言葉で書いていますが、子どもを死なせないということです。平成２９年度、北区で１名、幼い幼児の命が奪われております。それが二度と繰り返されないためのディフェンスを行うということです。それと、待機児童ゼロ、これは大阪市を挙げて進めておりますが、継続して、今北区は待機児童ゼロなんですけれども、だんだん御覧のとおりマンションが乱立してきていますので、そのための保育施設も確保していかなあかんと、こういうことでございます。

あとは、地域ＳＮＳ、スマホのアプリでピアッザという会社と提携しまして、これはどちらかというと３０代から４０代の子育て世代の方がよく使うアプリなんです。そのコミュニティをきっちり、別の意味で試験的につくっていきたいということで、ソーシャルメディアを使ったコミュニティづくりということで、このピアッザの登録ユーザーを３，５００人、子育て世代の７４％まで引き上げるという作戦を考えたいと思っています。

あと最後の接遇は、毎年２４の区役所は、庁舎によって接遇評価がされます。今、北区は５点満点の３．５ポイントを数年継続してやっています。中盤です。それを何とか４．０、上位陣に上げていきたいと。そんなことを考えているのが３か年の目標値になります。

それを単年度ごとに刻んだらこういうこと（８ページ）になります。来年、再来年、その次と。これは刻みの問題です。

今日はあまり福祉のことが出ませんのは、福祉は昨年度、この場でも御議論いただいたようで、要は地域福祉計画の５か年計画が昨年度策定されて、今年度スタートしているので、それは当然ながらその分は継続をさせますということです。

今から細かい作戦を申し上げますが、戦略としては学校を軸にした事業展開を行い

たい。これは皆さんのお子さん、お孫さん、あるいは御自身が北区の学校にいる、卒業、愛着もあるし、避難所でもあるし、生涯学習の場でもある。そういうところを大事にしながら展開をしていくということの意義です。

それと、北区に来て思いますのは、ここには５００社を超える一部上場企業があります。実は行政と企業のつながりはあまりございません。だけど、地域はつながっていたりするんです。何とかそれを行政のつながりに上げていく。取りあえず教育の分野でつながっていく。最終的には防災の分野につなげるということの作戦を進めてまいりたいと思っています。

それでは、個々の事業について御説明いたします。まず教育施策ですけれども、目指す姿は、自分で考えて行動する人財の育成。「財」という字は財産の「財」を書きました。パナソニックの創始者である松下幸之助さんは必ずこの字を使いました。人は財産であると。私もだからこの字を使っています。自分で考えて行動する人財の育成というのはどういうことかといいますと、私は教育者でも何でもないです。私は１０万人いるパナソニックグループの一社員として生きてきましたが、やっぱり生きがい、やりがいを持って生きる人財というのは、自分で考えて行動できるんです。それは、社会人になってからじゃなくて、既に学生時代の中で夢や目標を持って挑戦していく、挫折して乗り越えてきた人間が持つんです。だから、中学校の先生にはこういう人財を育成してほしいと。社会の求めている人財ですと、そういうふうな話をします。そのために、学力も全国平均を上回らないと駄目だし、中学生はやっぱり次を考えたら夢や目標を持ってそこに頑張れる、そういう子どもをつくっていく必要があると。この中学生の割合７４％というのは、評価者は皆さんじゃないんです。中学生に聞きます。中学生が私の評価として上げてくれる割合が７４％じゃないと駄目ですということです。

そのためにすべきことは、大きくは三つ。私は直接授業する立場の人間じゃないので、授業が向上するための学校支援を行いたいと思っています。一つは、学活ボラン

ティアの充実。これは何かといいますと、実は学校って教師と子どもだけじゃないんです。例えば三野委員が朝迎えに行っていただくように、三野さんがいなかったら不登校になっちゃう子がいるんです。そういうサポートをしてくれる人が必要なんです。例えば、教室の中には多動症という落ち着きのない子が最近増えているんです。でも、横に座ってやって落ち着かせてやると、教師は授業に集中できるんです。放課後も、帰したら宿題してこない子がおっても、ちょっと本を読むのを聞いてあげるだけで本を読むんです。そういうサポートする教員免許のない人が必要なんです。このための予算を来年度は拡大します。これは学校の先生一番喜んでいます。

それと、２番目は本物を本物の場所で芸術鑑賞。北区は芸術鑑賞にかなり力を入れています。今回は何をしようかというと、せっかく北区にはザ・シンフォニーホールがある、天満天神繁昌亭がある、大阪四季劇場がある、そこで見たらいいやんと。そこで見て、感じて、本物をぶつけてやることによって、刺激になって夢や目標を持てるんだと思っています。

それと３番目は、今回からかなり強化します。企業の人に中学校に来てもらいます。そこで職業出前授業というものをして、協力してもらおうと思っています。

これ（１３ページ）が芸術文化事業一覧。中学校は来年から、中学校１年生か２年生か３年生かは、学校に任せます。各学年は必ず大阪四季劇場や繁昌亭へ行って見てもらいます。小学生高学年は、ザ・シンフォニーホールへ行ってオーケストラの演奏を聴いてもらいます。能楽も見てもらいます。低学年は行けませんから、やっぱり講堂に呼んできて、何かプロのパフォーマンスを見てもらうと。そういうふうにしたいと考えております。これは学校の教師が湧いています。子どもの感性を揺すぶってほしいと言っています。職業講話の充実。これは中学校に職業講話というプログラムもありまして、企業の方に来てもらって、５時間目と６時間目にそれぞれ授業をしてもらうんです。夢を語っていただく。企業が持っている未来戦略と、それに向かって頑張る大人の姿を話してくださいと言っています。私は一本釣りで６０社ぐらい来ても

らう約束ができています。一番先発は２月８日に特別講演を区民センターで行います。ＪＡＸＡが来ます。今、ＪＡＸＡは「はやぶさ２」というのをリュウグウまで飛ばして、１２月６日に帰ってきます。恐らく今、世情が暗い中で、唯一日本が湧く瞬間かもしれません。それに参画している技術屋に来てもらいます。彼は中学校のときにケネディ宇宙センターでロケットを見て、宇宙を目指したいと、頑張って大学受験しています。でも、今回の初トライのはやぶさで未知の世界のことがたくさん出てきて、困難に立ち向かいながら着陸して、サンプルを持って今飛行ルートを逆走していると。そこにいろんな苦労がある。その姿を中学生に見てもらいたい、聞いてもらいたいと思っています。それ以外にも、今回集めた企業さんは、デザイン業界、ロボット、あるいは飛行機、医薬品業界。皆さん、今コロナの時代に薬ってどうやってつくるのって聞きたいと思いませんか。そういう話です。そのためにはたくさんの失敗の事例を積み重ねながら成功品をつくっていくということのプロセスを聞いてもらいたいです。放送局は区内には２か所あります。これは三島委員が大分つないでくれました。地域と企業はつながっているということなんです。劇団四季も、劇団員が来てくれます。大工大という大学もサポートしてくれます。専門学校もたくさんあります。オリックスあるいはセレッソ大阪は元選手が来ます。私も、区長の話はできませんが、建築業界の話ぐらいさせていただこうと思っています。

　そんなことをしていますと、本当は今年コロナ禍で学校にこんなことをしている余裕ないんですけれども、大淀中学校と北稜中学校は、こんなラインアップが出てくるならぜひ空けてでもしたいと言い出しまして、今、皆さん見ていただいている一覧（１５ページ）の中の緑の会社が大淀中学校と北稜中学校に来てくれます。星のついている企業は何かといいますと、来てくれるだけじゃなくて、それ以外の支援もしてくれるということです。例えばソフトバンクは、Ｐｅｐｐｅｒ君を貸してくれるらしいです。今年から小学校ではプログラミング教育が始まりました。でも、学校の先生は、大学の教育課程でプログラミングは習っていないというのが現状です。ソフトバ

ンクがＰｅｐｐｅｒ君を連れてきてプログラミングのサポートをしてくれると。堀川小学校と西天満小学校に入ります。だんだん授業という間口で企業が社会貢献でいろんなサポートをしてくれるということなんです。これを広げていきます。１００社ぐらいまで行こうと思っています。

防災の分野は、私は阪神大震災のときは住宅会社におりましたので、実際、仮設住宅の建設ということに携わりました。東日本大震災のときは、ちょうどその日大阪から東京に出張して、品川で帰宅難民になりました。鬼怒川の氾濫のときは不動産事業をしていたものですから、いかに被災者を民間借家に受け入れるかということを国土交通省とやりました。そういう経験の中で、この防災ということを推進していきたいと思っています。目標は１万人。講座とか防災訓練に参加いただく方を現在の倍、１万人にすると。指標としては、小学校で児童、ＰＴＡ、地域合同の訓練を行いたい。小学生だけで４，０００人いますから。そこにＰＴＡと父兄来られて、中学校も別にありますけど、そういう訓練をしたら、子どもにひっつけて親御さんを導入して、地域を導入する、そんな訓練をしようかなと。うまくいかないこともありまして、扇町校下って校区が広過ぎて、多分扇町小学校が広域避難所じゃない地域がたくさんあります。きれいにいかない。堀川小学校は児童数７５０人います。そこに親が来てもらったら運動場破裂します。だから、この手順どおりいかない地域もあるんですけれども、だから地域ごとにやり方を考えるということになろうかなと思っています。

大阪工業大学とか企業さんなどがいろんな防災の技術検討を、北区の企業さんですけれども、検討いただいています。例えば、災害時にドローンをどう活用できるかみたいな研究も大工大、あるいはドローンの会社が北区にあるんです。それと、水中眼鏡みたいな、仮想現実が見えるやつがあるんですけど、そういう研究は大工大がやっているんです。防災訓練の一つのアイテムとして、水、消火器だけじゃなくて、そういうことも加味しながら、もっと何か楽しみながら防災を学習できるアイテムを開発していかなければと思っています。

それと、区災害対策本部の常設化と書いています。実は皆さんが座っているこの場所が区災害対策本部になります。ふだんは会議室です。今晩、職員が帰ってから地震が起きて大災害が起きれば、職員がここに駆けつけてくるんですけれども、そういう機材は３階にあります。無線機とかをよっこらせと全部上に上げてこないとあかんのです。その時間がもったいない。だから、３階の執務スペースがすぐ防災本部に変わるように室内を変えるということを今年度から来年度にかけて行います。

それと、薬剤師会さんの協力によりまして、先月提携しました。要は医薬品のローリングストックの締結。これは何かといいますと、大阪市は大阪府下に３か所の薬の備蓄を持っています。災害時はそこから運びます。ここに落とし穴があるんです。阪神大震災のときは道路が止まって、３日間、車が動きませんでした。３日間は北区にある医薬品で過ごすということなんです。だから、そのときに、救護所にドクターが派遣されたときに医薬品がなければ何の意味もないので、薬剤師会さんが優先的に救護所にお薬を提供いただくと、そういう締結を先日行いました。こういうことを含めて、使わないにこしたことないですけど、万が一の準備は進めていきたいと考えてございます。

防犯は、ここ北区は犯罪発生件数ワースト２。１位は中央区。やっぱりミナミやキタの繁華街を持っている地域です。特に子どもの声かけ事案や特殊詐欺は増加傾向にあります。特殊詐欺を防ぐためには、おばあちゃん気をつけてねという話なんですけれども、講座を開くということもあるんですけれども、青パトが毎日走っていますから、そのアナウンスを変えました。実は、今、青パトのアナウンスは、関西テレビの新実アナウンサーがやっていただいている。「関西テレビの新実です」と、すごく通る声でやっている。いわゆる家の中に情報を直接放り込むということ。だから、青パトの稼働率を上げておきたいんです。毎日が啓発なんです。そういうことだと思っています。それと、子どもの声かけ事案というのは年々増えていますが、これが発生する時間帯は大阪府警のホームページに書いています。３時台から５時台です。下校後

の公園、道路で起こっています。そこをどうディフェンスするかという問題なんです。そのために、今皆さんの御自宅、事務所にこういうこども１１０番の家運動ってついています。２，０００件だけ。でも、それ公園のそばなんだろうか、道端なんだろうかというと、ちょっと違う。したがって、そこで助けてもらうためには、そこを通っている自転車や自動車、ある意味今のこども１１０番の家に上積みすることの、強いて言うならば走るこども１１０番。いわゆるそういう意識を持って車を運転しておいてほしいと。自転車に乗っている人は助けてあげてほしいと。助けるというか、スマホで警察に場所を言って連絡してあげてほしい。そういう機運を上げていく。そのために、人口の２０％、２万７，０００か所ぐらいの参加が必要かなと思っています。そういうことをこれからやろうということでございます。

放置自転車。放置率という言葉を先ほど申し上げました。放置率というのは、分数でいいますと、分子は１日当たりの放置自転車の台数、分母が同じく放置自転車の台数と駐輪場台数を足したものです。駐輪場利用台数とは、駐輪場の台数に利用率を掛けたものです。令和元年実績の表を見ていただくと、放置率が今１７％です。中央区１５％です。早いこと中央区に１位の座をあげたいと思っていますが、今、１日の放置自転車は大体１，１００台。駐輪ができる公的駐輪場の台数は９，０２３台あります。ただ、そこを使っていただいている割合は５９％です。止めたいところにないのは確かなんです。どこかのショッピングセンターの前にはありません。ちょっと離れています。だけど、駐輪場の利用台数は６割以下なんです。したがって、放置率を下げるということは、放置自転車そのものを減らすということなんですけれども、あとは駐輪場の台数も増やしていかなあかんし、駐輪場への誘導もしていかなあかん、こういうことなんです。重点施策としては、今実際に御苦労いただいている地域の皆さん、啓発の皆さんと一緒に活動していくと。一応宣言しておきますが、毎月、各地域の活動に私が参加しています。ほとんど話をしています。そこに知恵があるんです。各地域で活動されている方に知恵がある。ずっと行って、効果出んかったら、針のむ

しろに座るのは私だけなので、ちょうどいいかなと思っています。そういうやり方をしようと。これが連携強化ということです。

これ皆さんの知恵なんですけど、今、北区は委託して駐輪場への誘導員というのが何名かおりまして、区内を巡回しています。ステッカーを貼って、迷惑ですと言って。よく言われた。「区長、あんなんしても無駄やで」と。「来たら、ぺっとはがして放りよるもん」と。僕も見ていたらそのとおりです。来年度は巡回させません。たまる場所は決まっていますから、そこに立ってもらいます。あっちの駐輪場へ行ってと言ったほうが早い。そういうやり方に変えます。これは現場の声です。それと、こんなことを言っていましたらセレッソ大阪さんが協力しますということで、これから各地域の啓発活動にセレッソ大阪の森島社長が、予定がない限りみんな来てくれるということです。となると、いろんなテレビ局さんが取り上げてくれて、この問題を大々的に拡散してくれるということも考えていかなあかんということでございます。

それと、駐輪場をつくるための切り札としては、公開空地の活用ということを行います。どういうことかというと、歩道に駐輪場をつくるということは、歩道幅が５メートル以上要るんです。皆さん、５メートルの駐輪場のない歩道、北区にどれだけ残っていますか。ないんです。ほぼつくり終えました。じゃ、駐輪場つくれないかということなんですけれども、公開空地というのは、大規模商業ビルがあったとしたら、少しオープンスペースを取れば大きな建物が建てられるという建築手法なんです。じゃ、オープンスペースというのは人が歩けますから、それと歩道を足したら、５メートル以上あったらええんちゃうんという、こういう理屈なんです。三島会長、ここに公開空地の活用を含む市営駐輪場の増設と書いたということは、大阪市としてはこのルールで行こうということの決心をしたということです。あとは個々の事案に対して警察の許可が要る。警察との協議を個々の場所について行います。これが一つの切り札になるかなと思っています。

量販店とのまちづくり協議もやっています。前田先生のいらっしゃる近所のスーパ

ーもここにお呼びして、けんけんがくがくやりました。そんなこともやっていかなあかんと思っています。

来年度はナビオ前、それと南森町の交差点辺り、あの辺りに駐輪場をつくります。それと、今急遽、国道２号線の北新地駅の辺りに増設をしてくれというのを放り込んで。何か増設の変化をしていかないと、活動の人から見えないし、もたないです。そういうものを今計画しています。ここ（２０ページの地図）の①、②、③、④、⑤と書いたポイントに、先ほどの誘導員を配置すると。毎日その辺を回りながらピンポイントでやっていくということにしたいと。これは実は今年度予算から、来月から始めます。重点的に立つのは来月から。配置を変えます。

児童虐待対策としては、幾つかあるんですけれども、ＮＥＷだけ言います。実は生まれてから３歳までは、区役所の保健師さん、必ず子どもと会うんです。乳幼児健診。４歳は会う機会がありません。５歳は就学前健診で会うんです。今、４歳の方で、保育施設や幼稚園に行っていない子が、約１００名います。大体１学年１，０００人です。１割が保育施設や幼稚園に行っていないです。そのあたりを今アプローチしながら、子どもさんの状況がどうなっているか確認しています。割とインターナショナルスクールとかに行っておられる方もいるので、純然たる家庭内保育というのは少ないかもしれません。そこが先ほどの虐待防止という意味でちょっと死角になるので、４歳児訪問事業を今年度始めました。プレスクールワーカーというのは０歳から５歳。これは認可外保育施設へ、保健師などの資格を持った人が回っています。案外、いろんな相談事を聞いてくれるとか、いろんなセミナーとかしてくれるということで、結構、喜ばれています。いろんな悩みが保育施設は保育施設であるんだなと。我々は認可保育施設とはつながっているんですけど、これによって認可外保育施設とつながれば、このディフェンスは高まるかなと。

それと、こどもサポートネットというのは、小・中学校でちょっとフォローの必要な子の支援を、区役所が学校と連携して福祉分野の支援につなぎます。これ実は２年

前に私の前任区である此花区でやったんですけれども、もともとは貧困対策でスタートしたんです。でも、やってみたら、６割はネグレクト、４割は不登校、２割が貧困。足して１０にならないのは重なっているということなんですが、そういう結果が表れました。これを松井市長に伝えると、虐待で全区やろうということで、全区展開を今年から始めましたので、また私は一から北区で推進の旗を上げようかなと。何とかこういう布陣の中で、０歳から中学校卒業するまで、何とか子どもの見守りを徹底したいと、こういうふうに思っています。

待機児童は、ゼロを当然ながら継続させるということになります。皆さん御存じのとおりマンションがこれだけ建ってくると、小学校の部屋が増築されているということは、特に大阪の堀川、滝川、扇町校下における保育施設がまず足りなくなってくるだろうということを想定しながら、誘致ということを進めていくというふうに考えて、いろんな制度を活用しながらやってまいりたいと思っています。この数字は執念を持って追いかけます。

庁舎の改善計画も検討しております。今年度はコロナ禍にあって、皆さんの横にアクリル板が立っているように、窓口の関係は全部仕切りをつけております。あと、ちょうど乳幼児健診の保健センター側にエレベーターがなくて、２階が健診ルームで、１階が受付なんです。ベビーバギーを引いたお母さんが２階に上がろうと思うと、この庁舎をぐるっと回らなあかんということがかねてから課題とされておりまして、今年度末から来年度にかけてエレベーターの増設を行う予定でございます。それと、来年度は先ほど申し上げたこの３階にある防災の担当部署をいつでも区災害対策本部に変えられるような設備仕様に切り替えます。それと、再来年度になると思いますけれども、私がこの区に来て一番思うのは、人が多い。来庁者が多い。仕方ないんですけどね。毎年毎年１万３，０００人が出ていって、１万５，０００人がこの区に入ってきます。その住民移動だけでも市内トップです。かつ、この天満駅前に区役所があるということは、ほかの区の方でも住民票が取りやすいということで、特に来庁者が多

い。特にこのコロナ禍で密の固まりになる。山本先生がよく言っていましたね。固まりなんですよ。来ないでと言えないので、この唯一の切り札としては、区民交流プラザの在り方をどうしていくかということをちょっと考えようと思っています。本当はそこも執務機能を置きたいんですけれども、あそこは期日前投票所であったりいろんな使い方があるものですから、その辺をどうするかという絵を全部当てはめていかないと、投票場所が要るものですから、そこら辺も加味しながら少し計画を詰めていきたい。だけど、割とゆったり回っていただけるような区役所に変えていきたいなと思っています。

あとはハートの問題で、今、おもてなし活動を推進しておりまして、これは接遇向上というよりも職員のホスピタリティ。そういう職員そのものの幸せにつながるというか、挨拶するとか礼儀作法というのはお客さんに対してだけじゃなくて自分の人生を豊かにすると。自分の人生豊かになろうよと、そういう活動を今推進しながら、それが区民の皆さんへの対応のレベルが上がればと、そういうふうに思っております。

最後に、これ区政会議と関係ないです。今年はコロナの影響で区民カーニバルを中止いたしました。これは仕方がないと思っています。ただ、これによって子どもたちの例えば吹奏楽の発表の場が全部なくなっています。来年、区民カーニバルをするかどうかはコロナ次第です。ただ、コロナで区民カーニバルが中止になった場合は、例えば区内には大工大の中に常翔ホールとか、あるいはザ・シンフォニーホールとか、教育目的であれば安く貸してくれるはずなので、そういうところで何か演奏会をして、無観客でもいいし、リモートで発信してもいいし、そういう場として何か代替のものを考えてまいりたいと、そういうふうに考えています。これは余談です。これはできれば区民カーニバルができるぐらいコロナが収束するということを願いながら、最悪の場合はそういう手段を取るということで御報告をさせていただきます。

途中はしょりましたが、ちょっと５分ほどオーバーしています。以上で説明のほう終わらせていただきます。ありがとうございました。

○山田議長

区長、詳しくご説明いただき、夢を与えてもらいましてありがとうございました。後ほど質問をまた皆さんから承りたいと思います。

続きまして、令和３年度北区運営方針（素案）と令和元年度の北区運営方針の自己評価につきまして、片岡課長、よろしくお願いいたします。

○片岡政策推進課長

北区政策推進課長の片岡です。それでは、早速説明させていただきます。

まずはお手元の次第のほうを御覧ください。三つ目の丸、議題ですけれども、先ほど区長から説明のありました一つ目の北区将来ビジョン３か年計画（案）を実行していくということで作成しております、二つ目、令和３年度北区運営方針（素案）と、前回予定しておりました三つ目の令和元年度北区運営方針の自己評価でございます。本日は、下の資料のところの下から４行目、資料４の昨年度、令和元年度北区運営方針自己評価に簡単に触れた後、主に資料２、資料３を使って来年度、令和３年度の運営方針（素案）を説明させていただきます。あと、この次第の一番下のほうですけれども、資料５のほうが前回開催された区政会議でいただいた意見への対応状況、それから資料６のほうが、今回の区政会議に向けてあらかじめいただきました事前質問に対する回答を載せております。このような構成になっております。

では早速、資料４のほうを御覧ください。資料４、令和元年度北区運営方針（自己評価）とございます。これは、前回御送付した主な取組状況の中で目標が未達成となっておりました項目を中心に簡潔に御説明いたします。

まず５ページをお開きください。５ページの真ん中に点線がございますが、その下、具体的取組１－２－１、放置自転車対策の取組です。区は啓発事業、建設局が整備あるいは撤去ということを中心にやっておりまして、啓発については３警察署等と連携して実施してまいりました。左下の自己評価欄の当年度の取組実績欄の二つ目のチョボでございますけれども、西天満４丁目、曾根崎２丁目、中津１丁目等に自転車駐輪

場を整備中とありまして、その下に括弧書きがあります。新型コロナウイルス感染拡大の影響により工期延長、令和２年７月末完成となりました。結果、右上のプロセス指標欄にあるとおり、目標は８７１台以下でございましたけれども、結果は一番左のほうですけどプロセス指標の達成状況というところにあるとおり１，０８５台と、目標未達となってしまいました。今後の改善策としましては、一番右端の箱でございます改善策欄ですけれども、利用率の低い公共駐輪場や附置義務駐輪場等の利用促進を図るため、啓発指導員を選択と集中により効果的に配置し、適正誘導していくとともに、民間駐輪場を含む案内サインや情報発信に関する課題等を整理し、駐輪場を利用しやすい環境を整えていく。加えて、放置自転車撤去とキャンペーン等を連携して効果的に実施することといたしております。

　では次に、１６ページをお開きください。１６ページ左上のほうですけれども、取組項目２、職員づくりと人材マネジメントとございます。職員の接遇研修はもとより、右上の当年度の取組内容の一つ目のチョボにございますように、全職員を対象に職員の課題発見、解決力の向上を図る業務改善研修を実施いたしました。この欄の一番下の段に（目標）とあります。ここにあるとおり、職員アンケートで、仕事にやりがいを感じている、あるいはある程度感じている割合ということで、目標は９０％以上と高く掲げておりますけれども、ページの一番左端に数字がございます目標の達成状況にございますとおり、昨年よりは少しアップしておるんですけれども、７８％となっておりまして、引き続き取り組んでまいります。

　次に、２６ページでございます。取組項目１１、これは地域活動協議会、いわゆる地活協そのものへの支援というところが中心ですけれども、地域に携わる職員がｅラーニングを受講し、地活協に期待する総意形成機能の趣旨を説明、理解を求め、認定や補助金等の勉強会を実施するなどし、右側の欄の当年度取組内容の欄の一番下、（目標）の６８％以上というところをクリアできるよう、今後も高めていくということを考えております。

このような元年度の運営方針の振り返りを踏まえまして、また北区将来ビジョン３か年計画を実行していくという方針の下、令和３年度の北区運営方針（素案）を作成しております。

では、資料２のほうを御覧ください。１枚物の資料２という分でございます。表題は、令和３年度北区運営方針（素案）全体構成となっております。素案となっておりますのは、現在、作業中ということで、今後ブラッシュアップしていくということでございます。昨年度までとは構成を変え、先ほどの北区将来ビジョン３か年計画に沿って、表側のほうを見ていただきたいんですが、経営課題、戦略、取組を分かりやすく１対１対１対応に構成しております。一番目に１、地域コミュニティとして、１－１、地域活動協議会による自律的な地域運営の向上を目指し、１－１－１、地域活動の支援を行ってまいります。２番以降、防災、防犯、自転車利用の適正化、子どもの安全、学力向上、キャリア教育と、先ほどの３か年計画の事項が並びまして、８番に地域福祉で、きめ細かい相談、支援サービスの充実に引き続き努めてまいります。９番、児童虐待ゼロ、子育て支援、健康、区政情報等の発信と、将来ビジョンの項目を中心に１２項目を挙げております。

続きまして、資料３の冊子のほうを御覧ください。令和３年度北区運営方針（素案）となっております。一番左上のほう、計画の下ですけれども、区・局の目標ですけれども、区長から北区将来ビジョン〔３か年計画〕で説明のありましたとおり、人が集い、ともに支えあい、絆をはぐくむまちを実現するという３か年の大きな目標の下、その下の欄ですが、区・局の使命、それからその下に令和３年度区・局運営の基本的な考え方というものをそれぞれ載せておりまして、３年度というところの下ですけれども、令和２年度策定の北区将来ビジョン・３か年計画に掲げる各分野を区の経営課題に位置づけ、めざすべき将来像の実現に向け取り組むことといたしております。

その下、重点的に取り組む主な経営課題（様式２）とありまして、その下に経営課題の概要、その下に経営課題１、地域コミュニティとあります。この番号の１という

のが先ほど資料２の一番最初の１、地域コミュニティの番号１と一致しております。

資料３、この冊子の１ページから３ページの重点的に取り組む主な経営課題（様式２）の部分は、この冊子の４ページ以降、後ろについております様式２の抜粋になっておりますので、防災を例に具体的に説明をしてまいります。６ページをお開きください。

６ページ左上のほうに経営課題２、地域防災についてですけれども、まず、めざすべき将来像として、多くの区民が「自助」「共助」の知識を身につけ、災害時において、適切な避難行動ができ、相互に助け合える状態でございます。しかし、現状は、その下ですが、防災訓練や講座の参加者が少なく、災害時に、避難所の開設や適切な避難行動が行えないおそれがあります。その要因としましては、その下ですが、区内の約９割がマンション世帯であることや転出入が多いことから、地域住民間の関係性の希薄化が見られ、防災訓練や講座の参加者が少ないことが考えられます。この要因を解消するために必要な課題として、一番下の箱ですけれども、区内の約９割がマンション世帯であることを踏まえた地域コミュニティの形成を促進する必要がある。防災訓練や講座に参加できる機会を増やす必要があると認識いたしております。

右側、７ページに移りまして、３年から５年間のめざす状態としましては、防災訓練や講座の参加者数を増やし、地域の防災力を向上させます。これを数値化した指標としては、その下の欄、アウトカム（成果）指標欄ですけれども、一つには、防災訓練や講座の参加者数、二つ目にはこの内数で大阪北区ジシン本を活用した防災講座の受講者数を挙げております。前者は、右に数字がありますけれども、元年度５，６９９人、２年はコロナで８００人に減少いたしますが、３年度７，０００、４年度９，０００、５年度には１万人に増やしてまいります。

その下、戦略（中期的な取組の方向性）としては、下の欄、小・中学校と連携して防災訓練や講座を実施する、マンションにおけるコミュニティの形成や地域とのつながりを促進する、大阪北区ジシン本を活用するといたしております。

これらの戦略に基づき、下の箱ですが、具体的取組２－１－１、防災訓練・講座等の実施として、元年度決算は６５６万３千円、２年度予算が７４０万２千円、３年度の今回の見込額は８７３万７千円と見込んでおります。３年度の取組内容はその下ですが、小・中学校と連携した防災訓練の実施を５校で、マンションコミュニティの形成に向けた支援は２０棟で、大阪北区ジシン本を活用した防災講座の開催数は５０回を見込んでおります。

一番下の欄ですが、撤退・再構築基準としては、防災訓練や講座の参加者数が目標参加者数の７０％以下の場合は、事業を再構築するということといたしております。

１ページのほうを見ていただきますと、今申し上げたことがちょうど真ん中の経営課題２というところに抜粋で移ってきております。

防災の関係は以上です。

続きまして１ページから順次説明してまいります。

まず、経営課題１、地域コミュニティの経営課題の概要のところを御覧いただきます。これまで地域と関わりの少なかったマンション住民をはじめとする地域住民に対して、地域活動への参加・参画を促す事業を地域の実情に合わせて進めていく必要があります。右側の主な戦略ですけれども、地活協の活動状況や自律の状況を把握し、地域カルテの更新などを通じて課題を共有したうえで、地域の実情に即したきめ細やかな支援を行い、マンション居住者を含め、より多くの住民参加による自律的な地域運営を実践することといたしました。

その下の主な具体的取組ですが、地域活動の支援として、３年度予算で８，７３３万７千円の計上を予定しております。地活協の活動状況を把握し、地域カルテの更新に係る意見交換会を通じて課題を共有し、地域の実情に即した支援を行います。それから、各マンションのコミュニティ形成を目的とした防災講座や防災の基本ルールづくり等のマンションコミュニティ支援を、各マンションの実情に即して実施してまいります。

以下、幾つか紹介したいと思っていたんですけれども、ちょっとお時間のほうが迫ってまいりましたので、また資料２のほうにお戻りいただきまして、主な事業だけ紹介をさせていただきます。

今、１と２は説明をいたしましたので、３番、地域安全防犯のほうですけれども、これは一番右の取組のところを見ていただきますと、こちらのほうで青色防犯パトロールの関係を計上しております。それから、放置自転車対策は４番、５番の子どもの安全ではこども１１０番運動の関係、６番の学力向上のところでは、学校活動の有償ボランティア、これは先ほど区長からも説明がありました。これが計上されております。７番、これも先ほどございました小・中学校の芸術鑑賞会やキャリア教育の支援がここに入っております。８番、地域福祉の中では、まちとも事業でありますとかコミュニティソーシャルワーカーの設置について予算が計上されております。９番は児童虐待の関係ですが、ペアレントトレーニングとかプレスクールワーカー、１０番は子育て支援ということで、一番右のところで親子の絆づくりプログラムの実施、１１番では、先ほどもありましたいきいき百歳体操であるとか、はつらつ脳活性化プロジェクト事業、こういうものについて予算計上を予定しているところでございます。

以上、はしょりましたけれども、元年度の運営方針と来年度の運営方針（素案）の概要の説明でございました。

議長、よろしくお願いいたします。

○山田議長

ありがとうございました。

それでは、委員の皆さんの意見を聞いてまいりたいと思いますが、できるだけ多くの方の意見をお聞きしたいと思いますので、お一人一問一答でお願いいたします。

前回と同じように、一問一答は議長の私を通じて質問、お答えをよろしくお願いいたします。

なお、本日は時間の関係でテーマのくくりはございませんので、受付で事前にお聞

きしております意見を述べる予定の項目により、テーマに関係なくこちらで指名させていただきたいと思います。

最初に、時間の関係もございまして、中途退座されると聞いております樋口委員、お願いしたいと思います。

○樋口委員

すみません、時間の関係で失礼させていただきますが、私のほうは児童虐待ゼロのところを選ばせていただきました。と申しますのも、自分の仕事柄、コロナのことをよく見ておりますので、小さい子どもたちを育てるに当たりまして、まずお産の段階から、今は立会いもできないし、お父さん、お母さんも退院するまで病院の中で独りで育てる。その辺から不安が始まっておりまして、退院されて帰ってきても、すぐに受診されるというか、受診してもなかなか、おじいちゃん、おばあちゃんも会いに来てくれないとか、そういうことでお母さんの不安がすごく募る中、これ全部コロナが悪いんやと思っているんですけれども、そういうことでフォローしてあげる人が誰もないということで、パソコンだけに頼って子育てをされておりますので、非常に、ただでも不安なところに、それがすごく虐待につながっているような気がいたします。自分もどうしていいか分からないし、若いお父さん、お母さんも、自分たちもずっと我慢していたところに子どもができて、自分の思うような生活ができないというところが今非常に問題かなと思います。

同じようにお年寄りたちもコロナで家に閉じ籠もっておりますので、本当に、受診される方ほとんど、悪いけど認知のほうがどんどん進んでいかれまして、診察させていただいても、コロナが怖いから来てくださらない。それで、やっと来てくださったら、え、こんなに分からんかったかなと思うぐらいに認知も進んでおられるということで、このコロナの影響を痛切に感じております。特に小さい子は何とか若いお父さん、お母さんの支援をまずしてあげないといけないと思う。それで、みんながネットばっかりに頼っているので、これはコロナが始まる前からネットだけの情報では子育

てはうまくいかないよということを口を酸っぱくして言うんですけれども、何せ健診のときでもみんな事細かに見てあげる機会というのが非常に減っておりまして、ワクチン接種などもそうです。集まることがいけなかったので、受診率が非常に下がってしまってということで、みんな子どもたちには不利なほうにばっかり働いております。ですから、集まらないといけないんだけれども、そこが今非常に難しいところで、病気との兼ね合いがありますので、まして今度インフルエンザがはやってきたらどうするかということで私たちも非常に悩んでいるところですので、健診などの人数を決めてでも、ちょっとずつの方をちょっとずつ見ていくというか、大事に１対１でも、最近でしたらアクリル板などでマスクをしてすればいいかなと思いますので、人手のかかることなんですけれども、回数を増やして、やっぱり人間同士が話さないと分からないところがいっぱいあるので、その辺、行政的にそういう機会を増やしていただけたらなということを感じております。

○山田議長

ありがとうございました。岩崎課長か柴田課長か、お願いします。

○岩崎健康課長

健康課岩崎でございます。

今、樋口委員のおっしゃった、コロナで出産が不安とか、独りでずっとお母さんが不安を抱えておられるということはあるかと思います。我々、業務としましては、コロナに関係なく今までも妊娠されたときから不安を抱えているお母様に対しては、必要な方にはケアをしていくという立場で事業を進めさせてもらっていましたので、常に妊娠届が出た段階から必要な方に御相談させていただくと。また、出産された後には、大阪市の事業でございますが、乳児につきまして全戸訪問させていただくということになっていますので、そこで何か問題がある方、御家庭というのを把握ができましたら、その後の支援とかにつなげていくというような体制の中で、保健師が前面に立ちながら対応させてもらっております。あと、それ以降は、我々関わりを持たせて

いただくのは乳幼児健診とかそういう機会でございますので、その機会を活用しながら対応させていただきたいと思っております。引き続き、そういう機会がある中で、必要な方に必要な支援を行っていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○山田議長

最初に申し上げましたように、本日結論が出ない、しかし急いでいるという方は、この会議が終わった後、担当の課長さんにお聞きしていただければと思います。

進めてまいります。

次に、板坂委員に子どもの安全について、お願いします。

○板坂委員

子どもの安全ということなんですけれども、こども１１０番の旗を掲げたり、新しくステッカーを作って車に貼るなどということが提案されてあるんですけれども、その前に、子どもたちが自分の地域に１１０番の家があるというのをどれぐらい知っているのかなというのが不思議に思います。それも併せて保護者の方にも周知をしていただいたら、平常時に、ここに１１０番の家があると小学生がわかっていたとしても、緊急時にどれだけわかって対応できるのかということがあると思います。小学校でも、ここに１１０番の家があるよと張り出している学校もあるかと思いますけれども、その情報が毎年更新されていなくて、最新の情報になっていないようなんです。なので、商店街のお店さんで協力していただいているところもたくさんあると思うんですけれども、今現状、コロナ禍でそのお店が閉まっていたり、活動できていなかったりするようなところがたくさんあると思います。なので、受け入れてくださるほうを増やすのもとても重要なことで大切なことだと思うんですけれども、どれだけ子どもたちが自分を受け入れてくれる場所があるかということの認知を広めるということが大切だと思いますので、よろしくお願いします。

○山田議長

それでは、片岡課長、お願いします。

○片岡政策推進課長

片岡です。

今委員のほうから御指摘のありましたこども１１０番運動ですけれども、こちらのほうは、今までは旗とかステッカーを掲出して、各家庭とか事業所の協力を仰いでやっていくということを中心にやっておりました。元年度末、令和２年３月３１日時点で２，３５２件、約２，４００件の登録をいただいております。ただ、委員のほうから御指摘ありましたように、どれぐらい知っているんだというところは若干の問題があるかというふうに認識しております。

ただ、そういう協力の家庭とか事業所数が非常に伸び悩んでいるという現状を課題として認識しておりますし、北区のほうでは街頭犯罪のほうが市内のワースト２ということで、これは先ほど区長ほうからもございました。また、子ども声かけ事案についても増加傾向にあるというような課題があると認識しておりますので、今後、走るこども１１０番という取組も進めまして、新たな展開も考えていきたいなと思っております。ただ、その前提としては、今委員がおっしゃったように今までの取組についても継続、充実してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いします。

以上でございます。

○山田議長

ありがとうございました。

続きまして、松田委員に子どもの安全について、お願いします。

○松田委員

恐れ入ります。松田と申します。どうぞよろしくお願いします。

先ほどの質問に関連するんですけれども、地域でよくある子どもの声かけ事案ということで、区役所のほうで青パトの巡回をなされています。私、中津なんですけれども、中津では大淀防犯協会が毎月第１金曜日と第３金曜日に、日本ペイントさんのほ

うから車の提供を受けまして、防犯パトロールを行っております。１４時から大体１６時ぐらい、子どもさんが大体下校される時間帯に実施しているんですけれども、区役所でやられている青パトの防犯パトロールと、できれば防犯協会のパトロールカーの連携とかというのも考えてみられたらどうかなと思いますので、それのところ、先ほど区長さんのほうから警察のほうとの連携もということをお聞きしましたので、よろしくお願いいたします。

○山田議長

片岡課長、お願いします。

○片岡政策推進課長

こども１１０番の関係でちょっと私のほうから、青パトのほうは地域課のほうから説明させていただきます。

私のほうはこども１１０番のほうを担当しておりまして、今松田委員おっしゃった子どもの声かけ事案が増加傾向にあると先ほど申し上げた件について説明します。子どもの声かけ事案は２９年度１６件、３０年度が１７件と１件増えただけだったんですが、元年度は３３件ということで、増加傾向にあるということも一つの課題だと認識しております。

青パトについては地域課のほうからお願いします。

○小野地域課長

地域課の小野でございます。よろしくお願いいたします。

今、松田委員からお話しいただきました、中津のエリアでの防犯パトロールと、区役所の行っています青パトと、１１０番事業も共通するかも分かりませんが、そういった青パトが区内であちこちに回っている、アナウンスの点もありましたけれども、しっかり回っていることが周囲に周知されるということがやはり犯罪の抑止になると思います。ですので、ちょうどお昼の下校時に中津地域を回っておられるということですので、そこと区役所の青パトが重なってしまうと、一つのエリアに集中した取組

になってしまいますので、そういったところは分けて、できるだけ広範囲でしっかりパトロールをしているよというところを周知できるように、中津の防犯協会さんと連携して進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○山田議長

ありがとうございました。

続きまして、次に地域防災について、南埜委員にお願いしたいと思います。

○南埜委員

南埜でございます。よろしくお願いいたします。

私、ジシン本サポーターとして１年ほど活動させていただいていますので防災についてお伺いしたいと思っております。

災害時、特に震災時、地震が起きたときの地域の救済において、行政と協働して地域の中心になるのは地活協さん、それから各連合町会さんだと認識しておりますが、それでよろしゅうございますでしょうか。

○山田議長

それでよろしいです。

○南埜委員

としましたら、マンション住民が９０％というこの北区におきまして、マンション住民の町会への参画というか会員というのは非常に数が少ないのではないかと思っております。特に賃貸の住民の方というのは、家主さん自体が地域にいらっしゃらない、非常に大きなマンションがたくさんあるように思います。管理人さんも常駐していらっしゃらない。そんなときに、何かが起きたとき、町会にもつながっていらっしゃらなければ、どういう救済がされるんだろうか。なかなか難しい、町会さん自身もそれを全部把握するのは難しいと思いますので、大変な混乱が起きるのではないかと思っております。

先ほどから北区のビジョンとしても、集い、支えあい、絆をはぐくむということをビジョンとして挙げてくださっていますが、やはりそういう意味で、町会さんにいかにたくさんの方が参画していただけるかというのは、大変な力になるのではないかと思っております。

実は私、阪神淡路大震災の折のことを思い出しまして、私の実家は神戸の東灘でございます。もう大阪に嫁いでおりましたが、３日後に家族が避難してまいりました。そのときに、もう震災直後なんていうのは、行政の力は決して入りません。自助と御近所との共助というのが、それが命をつなぐ全てだったと言っておりました。素手で人を掘り起こしたり、スコップを持ち合ったり、食べ物を分け合ったりしながら３日間を何とか過ごして、大阪へ逃げてまいりました。その中で、そのときに連合自治会長さんが書かれた『阪神淡路大震災の記録』というのが平成８年に、その１年間の活動をいろいろ書かれているのがあるんですけれども、その中でちょっと皆さんに聞いていただきたいのが、「自治会は、行事も終始スムーズに事を運ぶことができたので、住民からは大いに感謝されました。この反動で、地域内で自治会設立を督促していた大きなマンションが自治会設立の必要性を殊のほかに認識を深め、自治会設立の機運が高まってきていることは事実であるが、マンモスマンションのためか、震災から１年２か月経過したが、いまだに設立完成の報告がないのが残念であります。」こう結ばれております。これが平成８年でございます。それから今日まで、この状態はほとんど変わっていないのではないかと。震災をもろに受けた地域でさえこの状態が続いているのであったら、地域の方や町会さんがどんなに努力をしてもなかなか難しいのではないか。となると、行政さんの力を借りて、もう少し強い後押しをしていただく何らかの方法を考えていただけたらなと思っております。

以上です。

○山田議長

最初に、小野課長、まずお願いしたいと思います。後ほど区長のほうからもお願い

します。

〇小野地域課長

地域課の小野でございます。

大変重たい問題なのかなと思っております。やはり防災のときには自助がまずあって、そこから御近所との共助ということが立ち上がっていくということで、これは阪神淡路大震災を経験した世代にとっては、やはりあのとき見てきたことですし、これからもやはり、あのとき学んだものをしっかり今度北区で取り組まなければならないなと思っております。

その中で、北区の特徴であるマンション、特に御指摘いただきました賃貸というところは非常に我々もアプローチが難しいかなと思っております。幾つかマンションコミュニティの関係は運営方針にも出ておりますけれども、これはやはり分譲マンションというところでアプローチをかけているところでございまして、なかなかまだ賃貸マンション、特に区長からありましたけれども北区は出入りが結構大きいですから、短い期間だけ住まれて出ていかれるということを繰り返しているわけで、なかなかそんな中でコミュニティの醸成って難しいと思います。であるからゆえに、やはりふだんからそういった方に地域活動に興味を持っていただくといいましょうか、それは一つのイベントでもいいですし、子育て層がいらっしゃるのであれば地域の子育てのイベントでもいいでしょうし、高齢者のいらっしゃる賃貸マンションであれば百歳体操であったり、地域の中のそういった高齢者向けの活動に何か参加していただくようなきっかけが大事だと思っています。

やはり、これをすれば解決するよというのはなかなかないと思いますので、ふだんからのそういった地域活動での声かけは我々も一つの手段ではないかなと思っておりますので、そういったことも地道に継続していくことが大切かなと思っております。

以上でございます。

〇前田区長

先ほど私の説明の中にありました、だから防災訓練なんです。学校を軸にして防災訓練しましょうということなんです。小学校の児童の９割がマンションなんです。だから、学校で防災訓練をすると、子どもを迎えに来ないといけませんよね。災害のときに。だから、角度をちょっと、「マンション住民は」としていないんです。子どもをお迎えに来てくださいという防災訓練なんです。そこでやっぱり防災のことに関心を持ってもらわなあかん。だから、マンションの方だけじゃなくて、学校をステージにすれば、子どもから親まで行く。おそらくその親の大半はマンションの方やと思う。今回その攻め方を変えましょうという作戦で、しばらく重点的に、いわゆる選択と集中という言い方になるんですけれども、ちょっと切り口を変えたことでスタートをかけさせていただきたいなと、そういうふうに思っております。おっしゃっていること、マンションディベロッパーをやってきた身としては重々よく分かっております。

○南埜委員

申し訳ありません、もう少しだけよろしいですか。

○山田議長

簡単にお願いします。

○南埜委員

それは重々分かっておりまして、御努力いただいているのもよく分かっておりますが、それをもう一つ上で、例えば家主さん、それからある程度の規模のマンションを建てるというのか、マンションに対して、町会にもう少し何とか入っていただけるという、単身の方もたくさんいらっしゃると思いますので、何かそういう方法があればいいなと思って御質問させていただきました。ありがとうございました。

○山田議長

それでは、次に地域コミュニティについて、岩本委員、お願いします。

○岩本委員

岩本でございます。よろしくお願いいたします。

地域コミュニティということなんですけれども、実はいろいろ地域でイベントをやっております。一応毎月第１土曜日、地域で清掃活動、御堂筋をやって、そこで地域の会長さんを含めてちょっとお茶をして帰るという、そういうのを毎月繰り返しております。そこから、あの御堂筋でちょっとイベントをやりましょうというようなところとか、盆踊りであるとか、今年は全部それができなくなってしまいまして、どうしようということになっています。その清掃活動は８月から始めることができました。次、イベントどうしようかというところで、まずは小さいイベントをやりたいんですけれども、北区の中でやる場合に、いつぐらいからというめどをできましたら教えていただきたいです。例えば、来年３月ぐらいだったら何とか。多分、地域のところだけではできなくて、やっぱり北区の職員の方の協力とかそのあたりも要るので、逆にお願いして迷惑がかかるようだといけないというところもあって、どのタイミングぐらいから始められそうですかというような目安を教えていただけたらと思います。

○山田議長

小野課長、お願いします。

○小野地域課長

岩本様、ありがとうございます。イベントの再開に向けてということだと思います。これ、なかなかこちらのほうで、じゃ、いつからオーケーですねというようなことは、イベントの規模にもよりますでしょうし、参加される方の属性にもよると思います。北区におきましても地域活動を様々継続されておるわけなんですけれども、やはり一番コロナ禍におきまして大切なことは、皆様していただいてるマスクであったり手指の消毒であったり換気であったりというようなこと。あとはソーシャルディスタンスですね。このあたりの徹底がまず一番大原則だと思っておりますので、これは今、世の中そういうニューノーマルの世界になっていっているんだと思いますけれども、加えて、例えばマスクが着用できないとか、歌ったり飲んだり食べたりしなければならないというところであったり、あとは不特定多数の方が参加されて、後々感染者なり

陽性者が見つかったときに経路が追えないというようなケース、あとは大声を出したり、繰り返しますけど飲んだり食べたりするようなもの、これは避けなければならない一番大きなものだと思っておりますので、そのあたりをちょっと全体的に考えていただきながら、予防できるところは予防した上で、やはり今ひきこもりなり、おっしゃるとおりメンタル面でもいろんな支障が出てくると思います。イベントを待望されている方もいらっしゃると思います。スポーツイベントなどもどんどん拡大の方向で行っていると思いますので、そのあたりを見ていただきながら、地域でタイミングを図っていただくということが。またそのあたり区役所のほうにも御相談いただければ、何か御支援できることがあるかなと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○山田議長

次に移ります。

友田委員、お願いします。自転車利用の適正化について。

○友田委員

友田でございます。

自転車の放置については皆さん取り組んでおられますので、一生懸命頑張っていただきますようによろしくお願いします。

それと、自転車に乗っておられる方のマナーを本当に考えてほしい。自転車に乗ってスマホをずっとして、前も見んと、危ないことです。それから、信号無視。これも最近ちょっと多くなっております。何かそこら辺を、再度マナーを考えていただいて、広報で何かもう一度言っていただくとか、お願いできませんでしょうか。

○山田議長

もう一方、植松委員も同じく自転車利用の適正化について。

○植松委員

自転車に関しては、日頃いろいろ苦労しておるんですけれども、夜間撤去というの

が頻繁にはやってもらってはおるんですが、大体夕方６時が限界で、それ以上の遅い時間にはやってもらえない。取りあえず駅前第３ビルと第４ビルの間にはかなりいろんな自転車置場ができて、昼間はそれで足りていると思うんですけれども、残念ながら我々の北野地域の夜の繁華街、夜、特に人が集まるところは思い切り自転車が集まってきて、路地の中が自転車で埋めつくされるような状態が続いております。北野地域、あるいは堂島だとかそういう夜の繁華街が全くひどい状態でどうにもならないんですけれども、この辺は、理想ですけれども、例えば思い切り駐輪場をつくって、駐輪場を無料にするとか、そんなことができない限りこれはなくならないかなと思っておりますし、あるいは保管と撤去をもっと業者任せにして、例えば夜の１０時でもやってもらえるとかというようなところを考えてもらえたらいいかなと思っております。

以上です。

○山田議長

お二方の答弁お願いします。前田区長お願いします。

○前田区長

動いている自転車と止まっている自転車についてということなんでしょうけれども、止まっている自転車の件につきましては、撤去方法は検討するように言うてます。多分、植松委員は苦い経験もたくさんあって、７時に撤去すると、７時半になったら帰ってきはるんですよ。助かったって言って。今日撤去したら、明日来えへんって知ってますもんね。その繰り返しで、今啓発に頑張ってきていただいている方、やっぱりモチベーションがもたない。７時に行ったら、もう一回９時に行ってみるとか、今日行ったら、明日来えへんやろうと思っているときに、明日行ってみるとか、そういう変則的なことをやるようにいたします。そんなこともやりながら、やっぱりお互い揉め事がないように啓発していくという、一辺倒のやり方じゃなくて、やり方を考えるように指示しているし、実際そういうふうに変えていきますので、少し御協力いただけないかなと。

動いている自転車のほうは、友田委員をはじめ、ここの皆さん全部皆思っていると思います。大阪は、ちょっとしたところ、赤信号ってあるのかよみたいな世界が大阪のまちにあって、ほかのまちに行くと、東京とかは割と止まりはるんですよ。大阪って割とどっと行っちゃうような部分があって、特に今は電動自転車が主流で、勢いよく、ぽっと行く。ちょっと警察と連携しながら啓発に向いて動いていかなあかんやろうと。これも地道な努力やと思うので、いろんなアナウンスとかバスでの啓発、特に学校での啓発とか、御父兄参観のときにやるとか、そんなことも含めていろんな啓発活動を強めてまいりたいと思っております。またよろしくお願いいたします。

○山田議長

ありがとうございました。

次に、地域福祉について、岸本委員、お願いします。

○岸本委員

岸本です。よろしくお願いいたします。

この資料を見せていただいていまして、資料３の１８ページを見せていただいたときに、このグラフありますね。ＣＳＷ、Ｃｏ相談支援の延べ件数というのがありまして、これは地域福祉コーディネーターさんの相談件数がすごくあるんですけれども、ＣＳＷさんに関しましてだんだん減っていっている状況というのが見えてくるわけなんですけれども、そんな中で、今現在ＣＳＷさんの在り方というか方向性をどういうふうに考えておられるかということと、単年度でＣＳＷさん活動されていると思うんですけれども、単年度ということは、いろいろ地域のことで関わっておられるというお話なんですけれども、１年間で何ができますかというところを実は疑問に思っていまして、ある意味、例えば新しい方が来られました、じゃ、その最初の１年で大体顔を覚えてもらう、名前を覚えてもらうで精いっぱいやと思うんです。２年目でようやく何かしらをやり始めて、３年でようやくいろんなことができるという形になっていくと思うんです。ですから、地域福祉というのは特にそういったところが一番重要な

のではないかなと、ふと思う、今日この頃ではございますが。

ですから、そんな中で、ただ、今の状況を見ていますと、１年たちました、じゃ、その方が継続して次の年度もされるかというと、実はがっさり替わってしまわれるという。毎年替わっておられるという形で、実は私たちの福祉コーディネーターさん自身も、毎年替わられるとなると、じゃ、どんな話をしていいのか、また次の年度になると最初からまた説明し直さなければいけない状況というのが続いていまして、それと、関わられる方々も、結局、その人がたまたま何かをやっていることに来られたときに、あれは誰なんですかと。そのときに紹介していただいても、また次の年になると新しい顔ですので、またあれは誰なんですかという話になっていくという状況が今続いている状態になっております。ですから、ＣＳＷさんの在り方というかやり方というか、これからの仕組みの中で、隙間のない形をつくっていこうと思えば、ＣＳＷさんを介してというのを、必要とあれば、そこをもっと考えていかなければいけないのではないかなと思いまして、これをちょっと出させていただきました。いかにお考えでしょうか。お願いいたします。

○山田議長

柴田課長、お願いします。

○柴田福祉課長

福祉課長の柴田です。ありがとうございます。

今、御指摘いただきました資料３の１８ページ、ちょっと資料自体はアルファベットで書いてあるので分かりにくいかと思うんですけれども、１８ページの左上のグラフのところにＣＳＷ・Ｃｏ相談支援の延べ件数としてございまして、ここで御指摘をいただいたところなんですが、このＣＳＷというのがコミュニティソーシャルワーカーさん、そしてＣｏというのが地域福祉コーディネーターの方ということになります。まず、件数の推移なんですけれども、２８年度からのグラフで表しておりますが、当初はコミュニティソーシャルワーカーさんと地域福祉コーディネーターさんの相談の

件数は比較的近い、３，０００台だったわけです。それが全体として数が増えつつ、ちょっとこの一、二年の間は、トータル数は横ばいにはなっているのですが、地域福祉コーディネーターの方の件数がはるかに多くなって、そしてコミュニティソーシャルワーカーの方による件数というのが少なくなっているという推移でございます。ここについては、一つには、今課題として御指摘いただきました、コミュニティソーシャルワーカーさんは専門性をお持ちの専門職の方であるわけなんですけれども、ただ、その人が替わるという現実がございます。これに対して地域福祉コーディネーターの方は、もともと地域にお住まいで活躍されている中からお願いしているということであります。ですので、より地域に根差した生活の場から福祉に関わっていただく方と、それからいわゆる専門職で地域に関わる職員というものが本当にうまく連動する形で全体の切れ目のない支援を進めるという趣旨でございます。

そういった中で、ある意味トータル件数が増えつつ、地域福祉コーディネーターの方による件数のほうが数が多くなったということは、本当に地域の中で必要な気づき、また支援につなげていくきっかけというものが、本当に地域の皆さんによって担われる部分が増えてきたのではないかなと。最初、専門職の方とほぼ同じぐらいの比率だったものが、地域の方のほうがはるかに増えてきたというところは、ある意味地域の中での福祉の助け合いというものが一定定着してきているというふうなことがあるのではないかなと考えております。だからといって、専門職の方の役割というものはもちろん重要でありますので、定例の会議であるとか研修会等は開催をしていただきながら、課題解決に向けた連携を進めていっていただいているところです。

以上です。

○山田議長

ありがとうございました。

それでは次に、兼光委員に地域コミュニティについてお願いします。

○兼光委員

兼光でございます。よろしくお願いします。

地域コミュニティについてというところで、防災、防犯、いろんな話が出てきているんですけど、やっぱり根本になるのは地域のコミュニティがしっかりと確立されているというところが大事になってくるのかなというふうに思っています。

その中で、私自身、今、去年の２月に新築で完成したいわゆるタワーマンションと呼ばれるマンションに住んでおります。いわゆる北区の人口増加の縮図のようなものなのかなというふうに思います。そのマンションで今管理組合の役員をさせていただいております。その中で、先ほど町会のお話も出ていましたけれども、実際に町会の方に来ていただいてお話を面と向かってさせていただいたこともあります。ただ、管理組合の立場から申し上げさせていただくと、本当は加入するべきだとは思うわけなんですけれども、強制加入というのは、これ実際に裁判で、強制加入をさせたことによって管理組合の方が住民の方に訴えられてしまって、それで管理組合のほうが負けるというのが判例として出ていまして、それで私は加入を前向きに検討してもいいんじゃないかなと思っていたんですけれども、理事長が法務関係に詳しい方でしたので、やはり強制加入をさせるというのはなかなか難しいんじゃないかと。なので、どうしても個々人の判断に委ねるという形になりました。

ということは、やっぱりなかなか、特に大きなマンションになればなるほどいろんな考えをお持ちの方がいらっしゃいますので、そうした活動に好意的に思われる方もいらっしゃれば、やはりそんなの面倒くさいよという方も正直たくさん住んでいらっしゃるわけですので、やはり全体みんなで色を一つにしてやるというのはなかなか現実的に難しいのかなというふうに個人的には思っております。

その中で、マンションの中で防災訓練をやってみましょうというのがありまして、それで私が管理組合の役員をやっているんですよということを面接のときにお話しさせていただいたこともあって、今具体的に防災訓練の実施について話を進めているところなんですけれども、こういった活動の中で、やはり町会任せではなくて、防災訓

練の中で、マンションの中でコミュニティができていく一つのきっかけづくりがここでできるのかなと思うので、そこでやはり区役所の方にももっとどんどん入ってきていただいて、次はもっと、地域の防災訓練に参加してみませんかとか、そもそもそういうのがあるというのも私もあまりよく知らなかったので、そういうのもやっているんだなと、逆に勉強になったぐらいですので、実際防災訓練をやるときとかでも、そんなの面倒くさいよという方が結構いらっしゃるのかなと思ったんですけれども、区役所の方にきちんと意義を説明していただくと、それはすばらしい試みなのでぜひやってくださいというふうに言っていただけましたので、やはり役所の方にもっと前に出てきていただいて、直接管理組合であるとか住民の方に説明していただくことが重要なのかなというふうに感じました。

以上です。

○山田議長

小野課長、お願いします。

○小野地域課長

ありがとうございます。兼光様御自身がタワーマンションにお住まいということで、当事者の御意見として大変ありがたい御意見かなと思っております。我々もマンションコミュニティ事業ということで、まずは防災を切り口にして、マンションの中でのお付き合いを少し横に展開していただくということからスタートした上で、それをまた地域のコミュニティにつないでいくと。やはり地域活動に興味を持っていただいたりするということが一つのきっかけになります。それのテーマとしては、今防災ということが非常に大きくクローズアップされておりますし、コロナ禍ということもありますので、どういった避難が可能なのかというところの切り口としては入りやすいと思いますので、これも３年前からマンションコミュニティ事業ということを開始しておりますので、区役所のほうからも積極的に協力いただけるようなマンションにはどんどん参加していきたいと思っております。ただ、今年ちょっとコロナ禍で皆さんが

集まって説明をする場であったり、そういったことはできかねているという状況がありますが、いずれコロナが明ければスタートダッシュできるように、今そういったマンションの希望というか、そういった調査を今地道にしている状況ですので、まさに我々としては兼光様のような、ちょっと地域のほうにも目を向けていただけるような、そういった人材なり地域の方を見つけて広げていきたいと思っていますので、マンションのつながりの中でまたほかのマンションでもそういった声がありましたら御紹介いただくような形で、役所がまた伺いたいと思っておりますので、御協力を引き続きよろしくお願いいたします。

○山田議長

時間の関係で、もう一方、特に決めていないということですけど、重矢委員に一言お願いします。

○重矢委員

重矢でございます。よろしくお願いいたします。

私、前回の会議の時点で質問を申し上げた部分がございます。帰宅困難者対策協議会との連携についてという質問を送らせていただきました。それについて御回答いただいておりまして、ありがとうございます。

実は私、推薦していただいている団体が北区商店会総連合会のほうから推薦していただいて、この委員になっております。その関係もあるんですが、そこの協議会で勉強会がありまして、東京のギンザシックスという商業施設があるんですが、そこにたくさんの災害用の備蓄品がたくさん備蓄されていたのを見学して、どういう使い方をするんだとか、それは地域が銀座にあったものですから、その銀座を中心にした防災のそういう備蓄品に、そこのところでスペースを割いている。かなり大きなスペースでしたし、それから中の備蓄品を見ても、水、食料品、それから当然のことながら毛布とかその他医薬品も含めて多種多様に、平米でいうと現状の３倍ぐらいの広さがあったかと思いますが、それくらいの感じの中にびっしり詰まっていました。そんなの

を見て、何もそれと同じようにしろという意味ではないんですが、それも一つの参考にしていただきながら、聞いてみると、各地域には、例えば私、堀川におるんですが、堀川地域とか北野地域とか、それぞれに地域ごとに備蓄品はあると聞いております。それも御回答いただいているように、一つのあれはあるかと思いますが、頭に戻りますが、帰宅困難者対策協議会ということに対して、今のコロナ禍のことでなかなか連携はしにくいかとは思いますが、いろんな形で、大阪の表玄関である北区がそういう部分で実力を発揮できるように連携を取っていただけたらと思って質問します。よろしくお願いします。

○山田議長

小野課長、お願いします。

○小野地域課長

ありがとうございます。帰宅困難者対策協議会、例年でしたらこの時期でしたら１回、２回集まるような機会があったかと思いますけれども、企業さんのほうもずっと春からテレワークが中心でしたので、なかなかお集まりいただける機会が、これも区役所が集めるというか市の危機管理室が主体でやっていくわけなんですけれども、そういったことで、企業さんなりと直接お話しする機会が今年はございませんでした。テレワークということもありましたので、避難の在り方、特に今回コロナ禍ですから、以前のように集まって密集するわけにいかないということがございます。なので、どういう避難がいいのか。やはりまずは社内で待機していただく。家にいる住民の方であれば、自宅で避難していただくということで今旗を振っておるわけなんですけれども、避難所に避難されるとかえって密が生じて、コロナ禍ではどうなのかという議論もございますので、まずはそれぞれが必要なもの、食料であったり必要物品を備蓄していただくようにできないかということが、これから企業さんとまた対策協議会ではお会いする機会もございますので、コロナ禍における企業さんとの帰宅困難者の在り方のようなことはテーマとしてしっかり取り組んでいきたいと思います。まだちょっ

と今年取り組めていない状況でございます。

あと一つ、備蓄品につきましても、できるだけ必要なものは既にそろえておる状況ではございます。それに加えて、今例えば消毒薬であったりマスクであったりというのも必要かなということで、かえって今必要なものが増えていっている状況です。その中でスペースは限られますので、そのあたりも自助というところで申しますと、ふだんからお一人お一人が、何が必要なのか、例えば自分の常備薬であるとかそういったところも含めて考えていただくというようなことを啓発していくのが、まず区役所として取り組むべきことかなというふうに思っております。

以上でございます。

○山田議長

ありがとうございました。

これでほとんど発言いただいたんですけれども、岡田委員、三島委員、三野委員につきましては、時間が足りませんでしたので、お許し願って、次回には優先的に御発言願いたいと思います。申し訳ありません。

それでは、長らくお待たせいたしました。御出席していただいております議員の先生方に一言ずつお願いしたいと思います。

それでは、くらもと先生からお願いします。

○くらもと議員

市会議員のくらもとでございます。今日は参加させていただきましてありがとうございました。

北区将来ビジョン、それから運営方針等、大変ためになりました。私自身も北区に住む住民として非常にためになりました。個人的には、北区将来ビジョンを聴いて一番気になったのは、児童虐待防止対策かなというところでありまして、私自身、幼い子どもがおりまして、その関係で子育ての分野に非常に関心があります。大阪市会のほうでもこの児童虐待防止対策については、この資料を見ていると４歳児訪問事業、

ＮＥＷと書いていますけれども、もっとほかにもいろいろと虐待防止につながるようなことを政策として立案していければなというふうに考えている次第でございます。

本日はありがとうございました。

○山田議長

ありがとうございました。

続きまして、前田先生、お願いします。

○前田議員

今日は本当にありがとうございました。委員の皆さん本当にお疲れさまでございました。

そして、北区長のプレゼン、すばらしいプレゼンだったと思います。北区の課題をいろいろ抽出しながら、また数値をしっかりと使って具体的にどうしていくんだという道筋を分かりやすく御説明いただいて、非常に分かりやすかったと思います。

今コロナ禍で、ありとあらゆることが変わっていっていると。私ども議員も、本来であればいろんな地域の様々な行事や総会などの際にいろんな地域の方々から声をいただくんです。そうした意見の中から、私たちも地域に何ができるかなということを常に考えながら昨年まではやっておりました。一方で、一切行事がなくなったことによって、こういう貴重な場で、区政会議で御意見をいただくということもそうですし、また新しい方法でいろんな市民の方から声をいただく方法というのを私自身考えていかないといけないなという局面に入っております。特に先ほども町会の加入率の話がございました。北区は２４区の中でも町会加入率は極端に低いです。これは、都市部においてはやはりそういう傾向にございまして、別の区でいくとかなり高い区もございます。ですけれども、やはり人口の流入、そして入りと出が非常に激しい区になっておりますので、町会加入率をぐっと上げる方策というのが非常に一方で難しい部分があります。各連合単位でですけれども、ちょうどマンションが建つ前に、そのマンションの計画の事業者様のほうとお話をして、町会のほうで加入してくれませんかと

いう取組なども数年前からいろいろ連合町会長の方がお声かけをいただきながらやっていっているという現状ですけれども、先ほども話が出ました、必ずしも強制加入ということはなかなか難しい部分もあるというところで、これは大型のマンションになればなるほどマンション管理組合が非常にしっかりとしております。各理事長をはじめ議会もちゃんとその中で組合の協議会をやっておりますので、こういうところと非常に密に、行政サイドが、今はコロナで非常に難しいということありましたけれども、分譲マンションからになると思いますけれども、引き続き、災害、防災というのは必ず各マンションで議題に上がっているようですので、そこでサポートいただきながら、コミュニティと行政のつながりをうまく使っていただきたいなというふうに思います。

そういうところで、今日も本当にいろんな貴重な意見いただきました。これからまた今日の意見を踏まえて、今度は市会のほうでできることはないかということをしっかりと各委員会でやっていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。ありがとうございました。

○山田議長

それでは、最後になりましたが山本先生、お願いします。

○山本議員

市会議員の山本でございます。長時間にわたり皆様、いつものことながらでありますが、お疲れさまでございます。本当に久しぶりに区政会議に参加させていただきました。一新した感じで、これまで以上に内容の充実した区政会議だと感じております。これから北区将来ビジョン３か年計画の実現に向けて、目標達成に向けて、私どももしっかりと御協力していきたいと決意しております。

１点だけ、私が感じたのは地域防災に関してなんですけれども、防災訓練等をされるのはすばらしいことであります。ただ、そこに行けない障がいをお持ちの方とか高齢の方でお家で介護を受けていらっしゃる方等に、何とか防災の避難ケースマネジメントというか、その人に合った避難の仕方を、本人が分かるように、個人個人、障が

いや介護の度数も違うので難しいかとは思うんですけれども、丁寧にお一人お一人に合った、どこに逃げたらいいとか、どういう逃げ方をしたらいいとか、大変手間のかかる作業なんですけれども、ぜひ、大変なことは分かりながら取り組んでいただけたらありがたいなというふうに思っております。

今日は本当にありがとうございました。

○山田議長

ありがとうございました。先生方には貴重な御発言、本当にありがとうございました。

それでは、最後になりましたが、小玉副議長、よろしくお願いいたします。

○小玉副議長

小玉でございます。

本日はこのコロナ禍のこういうような状況の中で長時間議論していただきまして本当にありがとうございます。

防犯、防災から始まりまして、環境整備というのか自転車問題をはじめとする問題、そして地域コミュニティ、福祉の問題ということで多岐にわたっております。今年こういう状況でございますので、地域活動も限られた事業しか展開しておりません。冒頭に区長より、北区の将来ビジョン〔３か年計画〕（案）の説明がありました。また、令和２年度から５か年計画で「第２期福祉計画」の事業が展開されているところでございます。今後、多岐にわたる諸問題を解決していただければ幸いです。

まだまだコロナ禍が収束を見る時期ではございません。くれぐれも換気、マスク、そして３密、ソーシャル、手洗いは当然のことでございます。各自そういうことを守っていただいて、どうにかこのコロナが早いこと収束するような形で頑張っていただきたいと思います。

本日は本当に長時間ありがとうございました。

○山田議長

ありがとうございました。

委員の皆さん、本日は多くの御意見ありがとうございました。また、円滑な議事進行に御協力ありがとうございました。

本日委員の皆様方から出された意見や課題は、先ほどの先生方の御発言も一緒に区役所で十分御検討いただいて、区政に反映していただきたいと思います。

そして、本日議論の中途になってしまいました案件は、先ほど申し上げましたように区役所の事後対応のほうでよろしくお願いしておきたいと思います。

区政会議はこれで終了いたしますが、最後に区役所のほうから何かあればお願いしたいと思います。

○前田区長

皆さん、長時間にわたりいろんな御意見を賜りまして本当にありがとうございます。

皆さんそれぞれの意見というのがそれぞれの立場の真実であって、その皆さんの指摘いただいた課題を解決していけば、北区というのはもっといいまちになる。そのためのヒントをたくさん今日聞かせていただいた、そういうふうに認識しております。

これからこの課題に立ち向かうために、区役所は必ず先頭になって片棒を担ぎます。その片棒の一方の先端はぜひ皆さん担いでいただいて、一緒になって今向かうべき方向に御協力いただきたい。向かうべき方向は北区がいいまちになること、それだけですので、いろんな意味で我々も努力を惜しみませんので、どうぞ御支援いただきますようによろしくお願い申し上げます。

本日はどうもありがとうございました。

○山田議長

本日は、長時間にわたり本当にありがとうございました。

これをもちまして、第３４回北区区政会議を終了いたします。

６　配布資料

別添のとおり